

令和7年度 学校評価 分析

昨年度より評価が上がっている項目は青、下がっているものは黄色 赤は注目point
2025平均において、**太字は平均より高い項目**、**下線は平均より低い項目**

項目		教員				2025平均	2024平均
1	【教育課程】学校は、専門性に基づき、児童生徒のニーズに応じた授業を行っている。	31	66	2	0	3.3	3.4
2	【教育課程】学校は、児童生徒の主体性を引き出す教育をしている。	31	61	6	0	3.2	3.4
3	【教育課程】学校は、児童生徒の卒業後の生活を見据えた、基本的な生活習慣を身に付ける指導内容・方法の改善を行っている。	35	56	8	0	3.3	3.4
4	【教育課程】学校は、「個別の指導計画」について、客観的記録に基づき、目標、手立て、評価の関連づけを明確にして、保護者にわかりやすく説明している。	35	63	1	0	3.3	3.4
5	【教育課程】学校は、「個別の指導計画」の目標、手立てを客観的記録に基づき明確に、授業に生かしている。	24	66	9	0	3.2	3.3
6	【教育課程】学校は、児童生徒の卒業後の生活に向けて、計画的、段階的に子どもの成長を促す教育をしている。	30	63	6	0	3.2	3.3
7	【教育課程】学校は地域との繋がりに配慮し地域の一員として地域に関わった教育活動を行っている。	23	71	5	0	3.2	3.2
8	【生徒指導】学校は児童生徒の見本となる言動に留意し、人権を尊重した教育活動を行っている。	30	62	7	0	3.2	3.2
9	【生徒指導】学校は、協力したり助け合ったりすることなど、集団生活に必要な力を付けるための指導を行い、いじめ防止に取り組んでいる。	46	51	2	0	3.4	3.5
10	【健康安全指導】学校は、健康で安全に生活するための習慣や態度を身に付ける指導及び教育環境の整備に努めている。	35	62	3	0	3.3	3.4
11	【進路指導】学校は、児童生徒の将来につながる情報提供や進路指導がなされている。	31	59	8	0	3.2	3.2
12	【学校行事】学校行事、学部行事では、児童生徒が参加しやすい工夫がなされている。	46	48	5	0	3.4	3.5
13	【教育相談】学校は保護者の意見や悩みを聞いて解決しようとしている。	40	57	2	0	3.4	3.6
14	【情報交換】学校は、各種便りや学年・学部通信、連絡帳等を通じて、子どもの学習の様子や学校の教育活動を分かりやすく伝えている。	41	56	2	0	3.4	3.6
15	【情報公開】地域への学校公開や参観日の回数は適当である。	47	50	2	0	3.5	3.6
16	【情報公開】学校はホームページや各種メディア等を活用して、情報提供や教育活動の発信に取り組んでいる。	43	51	5	0	3.4	3.5
17	【業務改善】学校は教育の質を高める業務改善（働き方改革）に努めている。	18	50	31	1	2.9	3.1
18	【関係機関との連携】学校は、地域の教育、福祉、医療等の関係機関と、個別の教育支援計画を活用して連携を図っている。	21	62	16	0	3.1	3.2
19	【施設設備】学校は、施設設備等の安全に配慮して環境改善に取り組んでいる。	22	57	17	4	3	3.1
20	【学校予算】学校は、学習費、教材費等の使途について、保護者にわかりやすく説明している。	40	49	9	0	3.3	3.4
21	【校内連携】学校は、教職員が連携協働し、共通理解に基づいた指導・業務を行っている。	25	62	11	1	3.1	3.3
22	【対外的機能】学校は、地域の関係機関等への情報発信と連携を図り、地域の特別支援教育のセンター的機能を果たしている。	26	61	11	1	3.1	3.3
23	【寄宿舎】寄宿舎は、児童生徒の健康維持や安全な生活が送られるように環境を工夫している。	36	55	8	0	3.3	3.4
24	【専門性の向上】学校は、校内研究や研修の推進などをとおし、計画的・組織的な専門性の向上に取り組んでいる。	32	63	3	0	3.3	3.4
回収 100名/100名				2025	2024		
全体平均【教職員】				3.3	3.4		

項目		保護者				2025平均	2024平均
1	学校は、専門性に基づき、子どものニーズに応じた授業を行っている。	121	25	0	0	3.8	3.8
2	学校は、子どもの主体性を引き出す教育をしている。	118	25	3	0	3.8	3.8
3	学校は、子どもの卒業後の生活を見据えた、基本的な生活習慣の育成に配慮した指導を行っている。	114	32	0	0	3.8	3.7
4	学校の「個別の指導計画」では、担任から、指導の目標や手立て、評価がわかりやすく説明されている。	130	15	1	0	3.9	3.9
5	学校は、「個別の指導計画」の目標の達成に向けた授業づくりを行っている。	124	21	1	0	3.8	3.8
6	学校は、卒業後の生活に向けて、計画的、段階的に子どもの成長を促す教育をしている。	115	29	2	0	3.8	3.7
7	学校は地域とのつながりや地域の一員として地域に関わった教育活動を行っている。	82	51	13	0	3.5	3.5
8	学校は、子どもの人権を尊重した教育活動を行っている。	123	21	2	0	3.8	3.7
9	学校は、協力したり助け合ったりすることなど、集団生活に必要な力を付けるための指導を行い、いじめ防止に取り組んでいる。	119	25	2	0	3.8	3.8
10	学校は、健康で安全に生活するための習慣や態度を身に付ける指導及び教育環境の整備に努めている。	114	26	6	0	3.7	3.8
11	学校は、子どもの将来につながる情報提供や適切な進路指導をしている。	98	46	2	0	3.7	3.6
12	学校行事や学部行事では、子どもが意欲的に参加できるよう工夫している。	119	24	3	0	3.8	3.9
13	学校は、保護者の意見や悩みを聞き、解決しようとしている。	119	22	5	0	3.8	3.8
14	学校は、各種便りや学年・学部通信、連絡帳等を通じて、子どもの学習の様子や学校の教育活動を分かりやすく伝えている。	112	31	3	0	3.7	3.7
15	参観日や学校行事の回数、内容等は適当である。	107	32	6	0	3.7	3.7
16	学校はホームページや各種メディア等を活用して、情報提供や教育活動の発信に取り組んでいる。	92	43	11	0	3.6	3.5
17	学校は、地域や関係者等の意見をもとにして教育の質を高める業務改善・充実（働き方改革）に努めている。	82	53	10	1	3.5	3.5
18	学校は、「個別の教育支援計画」を活用して地域の教育、福祉、医療、進路先等の関係機関と連携した教育活動を行っている。	83	50	11	2	3.5	3.5
19	学校は、施設設備等の安全に配慮して環境改善に取り組んでいる。	94	39	13	0	3.6	3.5
20	学校は、学習費、教材費等の使途について、保護者にわかりやすく説明している。	119	22	5	0	3.8	3.8
21	学校は、教職員が連携協働し、共通理解に基づいた指導・業務を行っている。	110	32	4	0	3.7	3.7
22	学校は、地域の関係機関等と連携を図り、地域における特別支援教育のセンター的機能を果たしている。	81	53	9	3	3.5	3.5
23	寄宿舎は、子どもの健康維持や安全が確保されるよう工夫している。 (寄生保護者のみ回答)	15	1	0	0	3.9	4
回収 146家庭/156家庭 回収率 93.5% (Googleフォーム87.6%、紙面12.4%)				2025	2024		
全体平均【保護者】				3.7	3.7		

【教職員】

□成果 (2025年度の平均値である3.3以上、または、2024年度より平均値が上がり平均値と同値になった項目)

- 【教育課程】1,3,4【生徒指導】9【健康安全指導】10
【学校行事】12【情報交換】14【情報公開】15,16
【学校予算】20【寄宿舎】23【専門性の向上】24

■課題

(平均値3.3以下の項目)

- 【教育課程】2,5,6,7【生徒指導】8【進路指導】11
【業務改善】17【関係機関との連携】18
【施設設備】19【校内連携】21【対外的機能】22

【保護者】

□成果 (2024年度より平均値が上がった項目)

- 【教育課程】3,6【生徒指導】8【情報公開】16
【施設設備】19

■課題

(2024年度から数値が下がった項目)

- 【健康安全指導】10【学校行事】12【寄宿舎】23

《総合分析》

【保護者】

- (1)成果：昨年度に引き続き、全体的に学校への評価は高い傾向で、教育内容や指導、学校の基本的な運営体制において高評価を得ています。
☆個別の指導計画と授業の充実 ☆生活習慣と将来への準備 ☆安心・安全な環境と行事 ☆家庭との連携・透明性
- (2)課題：その一方で、項目16～19（地域連携や情報発信、専門的な外部連携等）において【C】と回答している保護者が二桁を超えています。地域に関わった教育活動やセンター的機能の拡充（福祉、医療、進路先等の関係機関）や各種便りや連絡帳等を通じた学習状況の伝達、ホームページ等を活用した情報発信の充実が期待されています。また、将来につながる情報提供や適切な進路指導は昨年度より改善されていますが、平均値には届いていません。さらに、数は少ないですが、Dの回答がある項目にも注視し（よい回答、傾向のみに注目するのではなく）、「あてはまらない」と回答した保護者の気持ちに寄り添いながら、今後の教育活動を考えていくことが大切と考えます。

【教職員】

- (1)成果：全体的に昨年度よりも平均が下がっています。これは、Aという回答からBの回答の割合が増えたり、単純にCの回答が増えたことが要因と考えます。平均値の項目も多いことから、引き続き、学校運営の改善に取り組んでいきたいと考えています。
- (2)課題：教育課程等については、著しく評価が低い項目（高い評価も多くない）はありませんでしたが、指導面で迷われている傾向が伺えます。個別の指導計画の授業への具体的な活用や計画的・段階的な成長を促す教育、人権を尊重した教育活動や将来につながる進路指導等における改善を図っていくことが大切です。個別の教育支援計画を外部と共有・活用するプロセスや本校で培った専門性を地域や他校に還元・発信していく対外的な活動の充実を進めていく必要があります。また、特に人権教育については、保護者評価との間に認識の差があり、教職員側が自らの言動や指導に対してより高い自省意識（あるいは現場での難しさ）を持っていることが推察されます。働き方改革も含めて上記のことを推進していくためには根拠のある指導や「子どもまんなか」にした指導支援など、日々の授業の中で一人一人が様々な武器（ツール）を持つことが大事となり、そのためには、自分自身で研修を深めたり、OJTのようにお手本になる先輩教員による実践を参考にしたりしていくことが大切です。日々の教職員間での連携協働、共通理解を高めていくと同時に情報交流などを短時間でもよいので積み重ねていくことが第一歩と考えます。そのためにも業務改善や平準化をさらに進めていく中で、「児童生徒」のことを考える時間が増えていく業務改善を進めていくことが課題です。